

教育目標		知・徳・体の調和のとれた人格の形成をめざし、社会の発展に寄与する生徒を育成する。				総合評価 B
運営方針		報告・連絡・相談を大切にし、職員が一丸となって取り組む				
平成27年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標		
		基礎・基本の学力を定着(基礎学力教室・野中タイム・質問教室等)		基礎学習の充実と授業力のアップ。さらに評価について検討する。		
		オアシス運動の推進(職員、生活部による挨拶運動・下校指導等)		職員全員、朝のスタートの挨拶「おはよう」を徹底する。		
		体力の向上(なわとび検定・授業中のランニング、筋力トレーニング等)		体育の授業の充実と、筋力アップを図る。		
		小中連携		出張授業の展開と、行事等の交流を活発にする。		
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
教育目標	学校運営	教職員一人一人が自覚をもって職務の遂行にあたり、学習指導や生徒指導等において積極的に生徒と関わっていく。	A	A	・職員朝会等、生徒1人ひとりの共通理解に日々努めている。今後更に、報・連・相を大事にして、協働できる体制作りを大切にしたい。	・今までの取組を確認しながら、評価基準を明確にし、保護者に知らせる必要がある。
	学習指導	学習指導要領の趣旨を理解し、教材研究や指導法の改善等の創意工夫に努め、また、評価について検討する。	A		・校内授業研を増やし、アクティブラーニングに向けての研修に取り組んだ。しかし依然として、低学力傾向の生徒への対応や評価基準の明確化などの課題があるので更に研修を深めていく必要がある。	・取組を広く知らせることで、学校の特色を理解してもらおう必要がある。
学習指導・特別活動	学校行事	学校行事において、生徒にとって魅力あるものとするために学校全体で取り組み、生徒の実態や地域の特色などを生かした活動を展開する。そのために行事の精選を行う。	A	A	・計画的に様々な研修や学年ごとの授業研修が行われた。 ・Q-U研修や生徒の情報交換など意欲的に取り組めた。 ・各学期ごとにさまざまな行事を行えた。 ・学級数減少に伴い、体育大会などを見直した。	・生徒主体の行事運営を企画をさらに教師がサポートする。 ・教師数の減少に伴い、専門的な指導を行えない場面も出てくると思われる。ボランティアを積極的に活用し、問題を解消したい。
	生徒の主体的自治的な活動	生徒の主体的・自治的な学級活動や生徒会活動などを活発にする。	A		・少人数になり、体育大会や文化祭などの取組に工夫が必要になった。 ・ボランティア活動など生徒会中心に活動を行えた。	・体力の向上に授業、部活動を通して進めてもらっているが、身近なことから生徒自身の自主性に期待したい。
	部活動の活性化	学校として生徒が達成感を得られるよう、部活動の活性化について工夫する。 生徒の減少を見越し、活動の精選を図る。	B		・各部とも休日なく活動を行えた。 ・外部コーチなどにより、専門的な指導を行えた。 ・合同チームによる、生徒の意欲の向上。	
生徒指導・教育相談	教育相談	生徒の人間成長を促し、悩みや相談に応じていくための体制を充実する。	B	B	・担任や学年が中心となり、また子どもサポートセンターやスクールカウンセラーと連携を図り、生徒の思いや悩みに応えている。さらに教育相談部としての体制を充実させたい。	・生徒数の減少に伴い、個々の生徒に対しての指導や相談には親密に寄り添うことができた。
	登下校指導・校外指導	教職員の分担計画を作成し登校指導や下校指導、定期的な校外指導を行う。	A		・毎月20日前後に校区補導会と連携し、保護者と教師とで計画的に行えた。また、朝の校門指導は役割分担し下校指導も部活動の顧問を中心に 行えた。	・固定化された狭い人間関係の中で、甘えが生じやすい面は否定できない。卒業してからの生徒の姿に責任の持てる指導を心がけていきたい。
	問題行動に対する対処	指導を必要とされる生徒に対して、学年を中心に組織的に継続的な指導を行うとともに、報・連・相を大切に未然防止に向けた積極的な生徒指導を心がける。	A		・個々の成長の発達段階に応じた指導を行えた。また、校内研修も行い積極的な生徒指導を心がけた。	
	規範意識の向上	生徒に挨拶や礼儀、社会的なマナー、また遅刻・欠席の連絡及び服装や携帯電話等に関する指導を徹底する。	B		・地区懇談会、新入生説明会やケータイ防止教室などで教師・生徒・保護者に対して携帯電話の使用について説明を行った。しかし、生徒の日常生活での規範意識の向上では、教師間の共通理解をさらに図っていく必要があると思われる。	
進路・キャリア教育	キャリア教育の充実	人間としての在り方生き方の観点に立って、入学時から卒業後までを見通した組織的・計画的なキャリア教育を実践する。	B	B	昨年に続き、柿の葉寿司づくり体験、フィールドワークを取り入れた地域学習を行った。また改正道路交通法での自転車の取り扱いについて警察よりゲストティーチャーを招き体験的に学習し校外学習と連携し取り組んだ。	・家庭・地域社会・関係諸機関等との連携を継続するとともに、新たな方面での職場体験等についても検討する。
	進路指導の充実	生徒が自己の能力や適正を理解し、自己の将来に対する目的意識や望ましい職業観・勤労観が育つよう努める。	B		生徒にとっては近い存在であるゲストティーチャーを迎え、望ましい勤労観・職業観を育めるように取り組んだ。自己の将来を見据え自己を見つめるように各種の進路情報を生徒たちに提供した。	・更なる地域教材の活用(人材・文化等)のため関係諸機関との連携、充実 ・行事及び取組間での連携、充実を図る
	体験活動と家庭・地域との連携	職場体験等、様々な体験的活動を行うことができるよう、家庭・地域社会・関係諸機関等と連携する。	A		生徒一人一人が自分の進路をより真剣に見つめる姿勢が芽生えた。今後は更に家庭・地域との連携を深め、より有効な体験的活動の実現に向けて工夫を図っていききたい。	・生徒からの発信の場等の活用

組織運営	校務分掌	教職員が意欲的に取り組めるような校内人事や校務分掌を分担する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌で十分に役割を果たし、有機的に機能している。また、職員間の共通理解や連携も取れている。今後、組織強化を進めていきたい。 地域パートナーシップ協議会との連携を考え、校内の分掌を見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員減で重複する分掌が増えている。基本的な改善が必要と考えられる。 	
研修	研修の実施	日頃の実践に役立つ教職員の研修を定期的実施する。また、研修の時間を確保する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携を考え、9年間を見通した指導の研修が行われた。また、公開授業に積極的に取組、小中合同の教科研修も行った。 Q-U研修や生徒の情報交換など積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 各研修会への参加や、市が実施する学習会の機会を有効に活用する。 小中連携を充実させるため、教員の交流や情報交換を密にし、計画を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も小・中連携を大切に教育活動を進めてもらいたい。
	小学校との連携	年間を通して小学校との連携を密にし、教科における交流や、その他行事についての交流を行う。	A		<ul style="list-style-type: none"> 小中の連携を考えた取組を推進できた。今年は教育研究所の研修で小中合同で研修を行った。また、行事でも積極的に交流を行った。 		
人権教育・特別支援教育	教職員の共通理解	報・連・相を大切に、生徒の実態や地域社会の実態を把握し、教職員の共通理解の下に、保護者の理解や協力を得ながら指導を進める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とも密接に関わりながら、職員が共通理解をして進めている。 定期的に研修の機会を設け、情報交換を行い、全教職員の共通理解を深めている。 今後も保護者との信頼関係を大切にしながら進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団作りについては、リーダーの育成が課題であり、様々な活動を通して育成していきたい。 特別支援の生徒だけでなく支援を必要とする生徒の1人1人の特性に合った支援体制を高める。更に情報を密に取り、進路等の研修を深める。 道徳の系統的・計画的な取組を更に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を育み、新しいことにも自らやろうという意識を高めていくことをお願いします。
	特別支援生徒との関わりと人権	支援を必要とする生徒やその保護者の思いに触れながら、自分との関わりや人権を尊重する学習を進める。	A		<ul style="list-style-type: none"> 日々の家庭訪や電話連絡を通じ、保護者の思いに触れながら連絡を密に取ることができた。 配慮し、関わることができたが、更に必要に応じた支援を充実したい。 		
	集団作り	学年、学級のなかまの一人ひとりを大切に作る集団づくりが高まるような取り組みを行う。また、いじめを許さない集団作りに努める。	A		<ul style="list-style-type: none"> 日々の学校生活や各学期の学校行事、ピアサポートを通して、一人ひとりを大切に作る集団作りが行われている。 Q-U等を活用し、生徒理解を深め、学級経営に活かしている。 いじめアンケートを実施し、各学級でいじめを許さない集団作りに努めた。 学級集団の中でリーダーを育てる必要がある。 		
	道徳教育	生徒が命の大切さや社会のルールを身に付けることができるよう、道徳の授業を中心に道徳教育を行う。	B		<ul style="list-style-type: none"> 指導計画に沿いながら、生徒の実態等に応じて道徳の授業に工夫が加えられている。 系統的・計画的な取組を更に進める必要がある。 		
	ボランティア活動	生徒会を中心に環境問題・国際理解・福祉体験などを教育活動に取り入れ、奉仕等のボランティア活動を積極的に行う。	A		<ul style="list-style-type: none"> 地域美化活動などを改善しながら継続していきたい。 多くの分野でのボランティア活動などに取り組んでいくことが、今後の課題である。 		
保健・安全	保健指導の充実	生徒が心身ともに健康に学校生活を過ごし、望ましい生活習慣が身につくよう、保健指導(喫煙・薬物・救命救急・命)の充実を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関や講師(警察・消防・保健師・助産師・大学教授・栄養士)とも連携し、年間を通して系統立てた保健指導が行えた。また、今年度は初めて栄養士による栄養指導も実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校門指導や巡回による交通安全指導 避難訓練で避難シューターを使ったが、その使い方などは全職員で共有する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導など地域の方の協力を大切に活動を進めてほしい。
	安全の推進	生徒が心身ともに安全な生活を送れるよう、安全管理を徹底し、自転車の交通安全指導や登下校時の安全指導に努める。	B		<ul style="list-style-type: none"> 規則を守り、登下校できていた。 自転車においてヘルメット着用の徹底した指導が必要である。1年生において、自転車の交通安全教室を開催し、マナーや安全な乗り方の指導を行った。 		
	危機管理の徹底	学校への不審者の侵入防止及び侵入された際の生徒の犯罪被害防止に関する危機管理体制を整備すると共に、防災・防火等に関する危機管理体制を整備し、計画的・実践的な避難訓練等を行う。	B		<ul style="list-style-type: none"> 不審者対応の研修ができなかったが、避難シューターを使用した避難訓練が行えた。 下校指導の徹底や校区内の巡視を必要に応じて行った。 南海トラフを想定し継続性のある安全教育が必要である。 		
家庭・地域との連携	連携での具体的な取組	家庭・地域社会・学校間・関係諸機関等の連携に向けて、具体的な取組を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭数が減少する中、学校行事への保護者の参加が減少している。 担任・生徒指導を中心に関係機関との連携がされていた。 地域との連携を更に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への参加をPTA役員を通じて呼びかける。 あらゆる機会を通して、家庭・地位・関係諸機関等と連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが美化活動など地域で活動する経験の場を今後も考えてほしい。
	教職員のPTA活動への参加	積極的にPTA活動に参加して、保護者や地域の人々と接する機会を多く持つ。	B		<ul style="list-style-type: none"> 奉仕作業や家庭教育学級などを通して、保護者との関わりが持てた。 		
情報の公表・文書管理	情報の発信	学年通信やホームページ等を利用して、各家庭に情報の発信を積極的に行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年通信やブログ等を通して、定期的に情報の発信に努めた。今後もホームページやブログの更新が滞らないよう情報の安定供給を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に情報の発信を行うとともに、状況に応じて必要な情報を適宜提供できるよう備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の管理仕方がない面もあるがホームページ、メールなど学校からの発信を充実してもらいたい。 小学校で取り組んでいるアンケート調査は、実態がわかりやすい。
	文書の保管・管理	情報公開や個人情報開示に即応できるよう、公文書の保管・管理を適切に行う。	A		<ul style="list-style-type: none"> 公文書等に関して基本的な保管・管理が適切になされている。 備品管理も以前から現在まで正確に整理されている。 マイナンバー制の導入により個人情報管理には十分注意したい。 		